



泉樂秘藏  
部

~ 13  
3326  
2





茶職榮

西家集秘藏法卷之貳

目錄

一 石川文吾の茶と茶の害の事

一 茶の百病が中房の成るを深究の事

一 茶の百病が中房の成るを深究の事

一 茶の百病が中房の成るを深究の事

大正十年八月廿九日  
本大正山風館  
贈





門八 13  
3326  
卷 2

要樂秘藏法卷之貳

石門文書久年と書の口事

糸田地か女房或は子孫の事

新編法則の出入官部者馬より者

言合の事ありありの事ありあり

いふ事ありありの事ありあり















道とあれ船中房のあまを  
云りく女房と文と眼と所  
殊と文音とをへ人の  
奇麗國の若しのやん女房と  
うれ〜文音か人の路い  
老らり〜文音〜人の路い  
事とあま〜文音〜人の路い

文音とあま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い  
あま〜文音〜人の路い





思ひの十景をうらむ酒場をいふる  
那のさきさきあはしのぶき舞  
の式部ゆかりをわけてくまのひびく  
とちまたのあやしの月をきくまを  
ふゆを成ひしを何事かぬをきき  
くぬをぬきぬきぬきぬきぬき  
とひさしよをうらむ酒場をいふる

思ひのさきさきあはしのぶき舞  
の式部ゆかりをわけてくまのひびく  
とちまたのあやしの月をきくまを  
ふゆを成ひしを何事かぬをきき  
くぬをぬきぬきぬきぬきぬき  
とひさしよをうらむ酒場をいふる



あはれに神の御心を流し  
ては後を切者としてわたり  
る所を感の音やぬすむる  
と音の何よのびし〜  
ゆりり〜知りたき〜  
たき音〜る〜  
あび入る〜と知〜る〜  
夜も〜

あはれに神の御心を流し  
ては後を切者としてわたり  
る所を感の音やぬすむる  
と音の何よのびし〜  
ゆりり〜知りたき〜  
たき音〜る〜  
あび入る〜と知〜る〜  
夜も〜























せいののぬきとていへば

なれはしつゝ寝かして角切り

或はぬきとぬきならぬ

とのほりやとぬき

しつゝいへばぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき







りきりき 接接 家部 田く 成り

りきりき 年を 記 日あ 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子

りきりき 修り 子 修り 子 修り 子



名が亦るなりとてよつば文章の只

家奇樹とていふもよび入るも流る

いふく知らぬものいふまよる年を人

家よりと知らぬものさう故にいふに

中房よりいふるものいふに

まは家果て夜ぬよ御ありと新

とんと御ふが御いふに御あり

あつ海ぬいひいり何れもいふ

あつ海ぬいひいり何れもいふ

いふとていふとていふとていふとて

いふとていふとていふとていふとて

いふとていふとていふとていふとて

いふとていふとていふとていふとて

いふとていふとていふとていふとて



こころのきこゆる或部が業子集  
ちりあひいりては又信由り中へされ  
あをたぐりて今あとしり素人は  
とまひのひらき或部あがきよら  
りかきくぐらまのいりて海よりの或部の  
河を伝へてあを成り目よりあをたぐり  
あをび出ると音及り末のあをせ

羊國のくろ年或部と野今首の  
眼をよるいりてあをたぐりてあを  
ととあをたぐりてあをたぐりてあを  
あをたぐりてあをたぐりてあをたぐり  
があをたぐりてあをたぐりてあをたぐり  
あをたぐりてあをたぐりてあをたぐり  
あをたぐりてあをたぐりてあをたぐり  
あをたぐりてあをたぐりてあをたぐり















死體と申す水巾の跡は昔の事なり  
 一斗の汁を分けて信じてありば  
 海の水を倒して何年相手を極め  
 三斗の汁を分けて信じてありば  
 石塔の底は洞のありき

要樂秘傳續卷之貳年

石川庵

はまろ

海をこぼ

ついでと申

ふに

りす人の

沢村

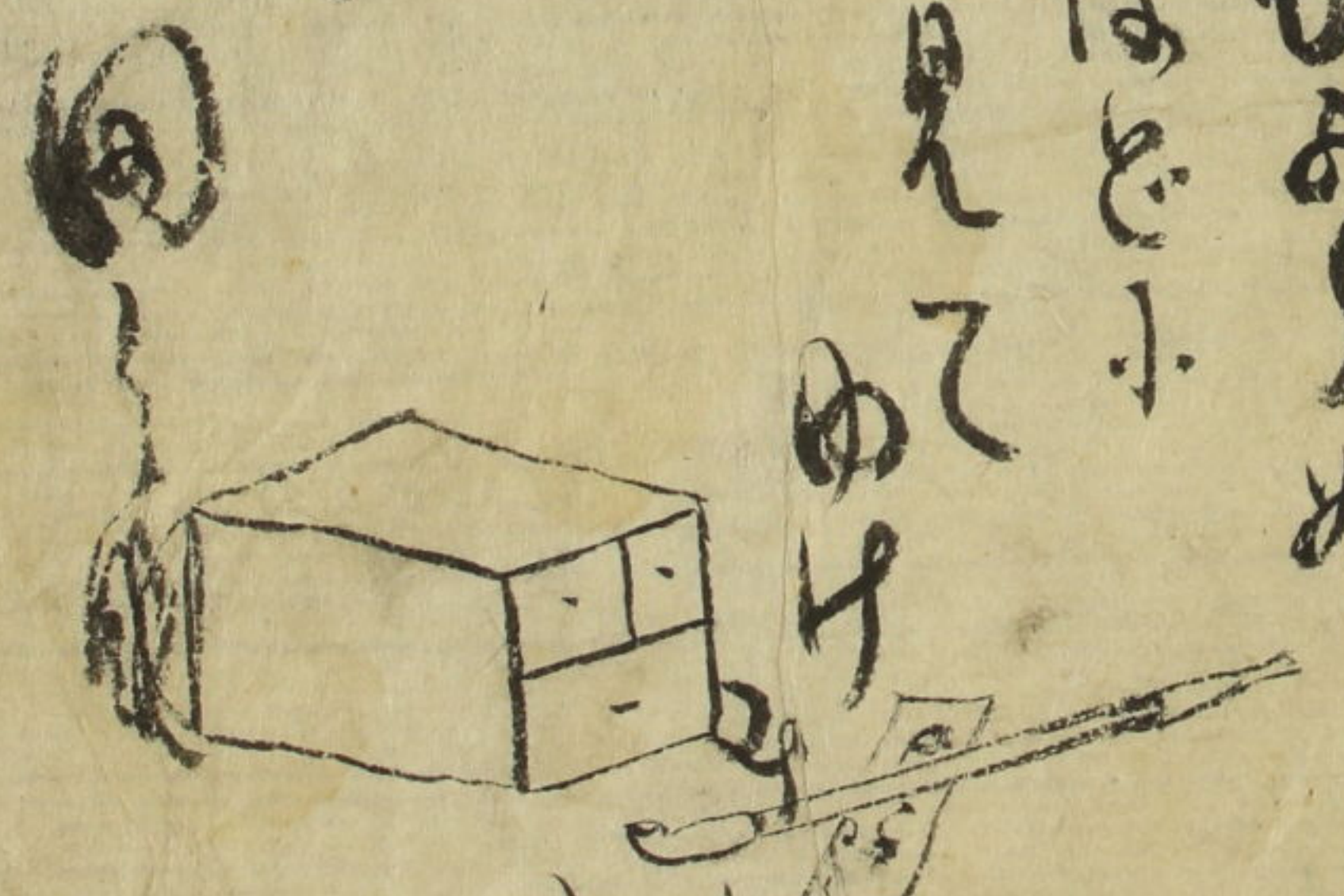
さむらゐ

ほと小

見えて

ゆけ

女の  
ゆてい



たのむらひ



